

# デジタル化で業務改善

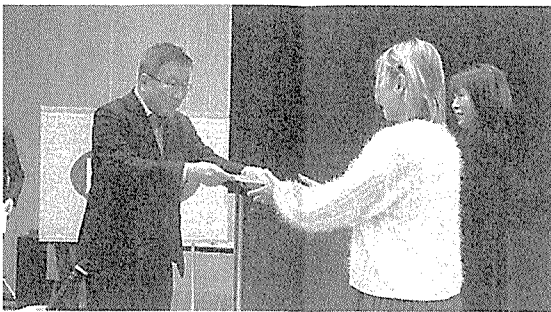
効率化や  
事故防止  
10チームが発表

川崎陸送（樋口恵一社長、東京都港区）は11月30日、QCサークル（小集団改善活動）の代表者発表大会を開いた。予選を勝ち抜いた10チームが効率化や事故防止に向けた取り組み事例を発表。1位の優秀賞には、デジタル化による業務の改善を図った赤穂営業所（兵庫県赤穂市）の「ひよこ物流」が輝いた。

発表者は、樋口社長からそれぞれ表彰状などを受け取った。

ひよこ物流のメンバーが所属する赤穂営業所は、薬品の保管・出庫などを手掛けている。紙で出力されていた出荷量リストや配車台帳を100%データ化し、

ペーパーレス化を実現。これにより、他の営業所もデータ管理が可能となって効率化を図れたのに加え、配



樋口社長⑤から賞状を受け取る「ひよこ物流」のメンバー

車のスピードも上がるという効果も出た。

2位の優良賞は「製造／出荷ルール変更への対応」「ひまわり」が選出。3位の努力賞には、有機ライ麦パンの検品作業などの効率化を実現した葛西流通センター（東京都江戸川区）の「サークルKF4」が選ばれた。

また、配送ルートの見直しでドライバーの残業時間を削減させた葛西流通センターの「湾岸ハゼドン」が審査員特別賞を受賞した。樋口氏は「改善事例が営業所間でなかなか共有できず、同じ営業所の中でも誰が何を提案したか分かっていない場合もある。皆のちょっとしたアイデアを共有して効率化することは難しいことはない。まねして応用してほしい」と呼び掛けた。（土屋太朗）